

第14回  
\* 最先端  
アンチエイジングの現場

# 35歳からの 美人道

# 安易に飛びつくのは危険!? 安全に 活用したい! 最新脱毛事情

料金が安くなったこともあり、医療機関やサロンで脱毛する人が増えている。ところが違法行為や施術時のトラブルも多いと聞く。そこで今回は脱毛の現場をリポートする。

撮影/山口洋介 取材・文/矢沢美香



医療法人社団 慶光会  
大城クリニック院長  
大城俊夫先生  
慶應義塾大学医学部客員教授、日本レーザー医学会理事ほかの役職を兼任。4万5000件もの施術を持つ、レーザー治療の第一人者。「レーザー治療による安心脱毛」(日経医療)ほか著書多数。03-5120-7070-046

## 永久脱毛ってどういうこと?

医療機関をはじめ、エステサロンでもさまざまな脱毛機器が導入され、手軽に脱毛をする人が増えてきた。だがその反面、違法業者が増えたり、施術者の不十分な知識や経験不足によるトラブルが問題になっている。なかでも多いのが「永久脱毛」と謳っているのにまた毛が生えてきた「やけどをした」などの苦情。エステサロンが行う脱毛に対しては、厳密な規制がないというのが実情で、研修もしないまま、経験のないエステティシャンに施術をさせるところもあるようだ。また料金を有効期限つきのチケット制にしているところが多く、なかには「1年間の有効期間しかないのに、予約が2ヵ月以上先まで取れない」など、良心的とは思えない話も聞く。気軽さでいえば、エステサロンの需要はやはり多い。ゆったりした個



髪を落している。この毛母細胞と毛乳頭にダメージを与えれば、毛が永久脱毛でき、毛が完全になくなるまでの時点で毛の再生量が20%以下に減ると「AEA」が認めた定義。

室でリラクゼーションを受けられるし、脱毛だけでなく全身のケアもできる。だが、なんの知識もないまま安易に飛びつくと、金銭的なリスクだけでなく危険が伴う、ということもまず知っておきたい。

## いろいろある脱毛法。どの部分に効果的?

脱毛の手法はさまざまだが、主に行われているのが、細い針を刺し電気を流すニードル式といわれる電気脱毛とレーザー脱毛の2つだ。左の図のように体毛は毛母細胞によってつくられている。この元となるのが毛乳頭と呼ばれる部分。ニードル式は、細い針(ニードル)を毛穴から毛乳頭に達するまで刺し、電気を流して一本一本抜いていく。これを毛の成長サイクルに合わせて繰

り返し、毛乳頭を破壊して毛が生えてこない状態にするもの。ワキやビキニラインなど、お手入れの欠かさない部分に施術する人が多いようだ。ただし、ニードル式は肌に直接針を刺すため、かなりの痛みを覚悟しなければならないという欠点も。一方、最近人気のレーザー脱毛はレーザーの熱によって毛乳頭にダメージを与えるという手法。レーザー治療のエキスパート、大城クリニック院長の大城俊夫先生に話を伺った。

## 手を細く、短く、色を薄く、レーザー脱毛の真実

「私の考える脱毛は、細く、短く、色を薄くして目立たなくするもの。つまり毛質をレーザーで剛毛からうぶ毛のように変化させるのです」  
永久脱毛とよくいわれるが、実際



## 施術者の技術とセンスが問われる生え際、首筋の脱毛



はじめに施術する部分のムダ毛を剃るので、仕上げが一回だけ。こめかみを広くすると顔の長さもカバー。「耳の横とうなじの薄毛も処理。すっきり見えるし、レーザーは毛穴を引き締める効果もあります」

自分で処理しにくい特定まわりのムダ毛にも、「ネックラインと平行に整えていくのがポイント」と大城先生。さすが長年の経験とセンスのよさ（！）がものを言う。

レーザーは顔の一部分にも対応。顔のかたちも同時に整えることができる。大城先生のアドバイスで真ん中のあたりを数本だけ処理。施術後はきれいなカーブの顔に。



「毛母細胞は幹細胞が分化してできた細胞。この幹細胞は表皮をつくるケラチノサイトや色素細胞をつくるのに欠かせない大事な細胞なんです。もし、完全に細胞を破壊してしまうと、新しい皮膚も生まれてこないし、メラニン色素もつくられなくなる。それに、アルコロールランプの原理と同じで、芯があることで毛細管現象によってアルコロールが先端まで染みていくわけですから、もし毛穴に毛がないと、皮膚層から脂が出てこない。皮膚の老化を早めてしまうし、皮膚ガンや乾燥皮膚炎になる可能性もあるのです」

大城先生が行う脱毛は、黒い物質に吸収されるアレキサンドライトというレーザーを使う。レーザー脱毛に使われる一般的な機器で、照射スポットは直径7ミリと10ミリがあり、この面積の体毛を一気に焼灼。毛穴の奥の大事な細胞を完全に破壊することなく脱毛ができるという。でも、これだとまた同じような太い毛が再生するのは……？

「毛母細胞が残るのももちろん毛は生えてきます。しかし、レーザーの熱が皮脂腺開口部や毛乳頭に及ぶことで、幹細胞はダメージを受け、新しい毛が太く育ちにくくなります。これを続けることで段階的に毛は薄くなっていきます。面白いことに40ミクロン以下の細さになれば、摩擦で簡単に毛切れして皮膚の表面からはなくなってしまうんです」

このレーザーは黒い部分に強く反応するため、太く硬い毛に効果的。逆に脱毛する場所にホクロやシミが多かったり、日焼けしていると脱毛し

はうぶ毛まで100%脱毛することは難しい。大城先生は、完全に毛がない状態は、肌にとってかえって危険だと指摘する。

「女性にはワキやひざ下が目立つ夏のシーズンに、2〜3回だけ来る人が多いんです。でも毛も元に戻ろうとする性質があるので、放っておけば太くなってしまふ。それに、体毛は紫外線をカットして皮膚を守る役目もあるんで、2〜3年放っておけば、太陽に当たる部分は薄くなる可能性も。妊娠などホルモンの影響で毛が濃くなる場合もあります」

料金の目安は両ワキで1回2万円。広い範囲にわたる場合は、1平方センチあたり料金を計算する。

はうぶ毛まで100%脱毛することは難しい。大城先生によると、毛の量や大きさにより個人差はあるものの、1カ月半から2カ月おきに5〜6回通えばほぼ完了するという。

「女性にはワキやひざ下が目立つ夏のシーズンに、2〜3回だけ来る人が多いんです。でも毛も元に戻ろうとする性質があるので、放っておけば太くなってしまふ。それに、体毛は紫外線をカットして皮膚を守る役目もあるんで、2〜3年放っておけば、太陽に当たる部分は薄くなる可能性も。妊娠などホルモンの影響で毛が濃くなる場合もあります」

料金の目安は両ワキで1回2万円。広い範囲にわたる場合は、1平方センチあたり料金を計算する。

「うちでは、特定やこめかみの生え際などもチェック。その人に合うきれいなフェイスラインをデザインします。これは施術者のセンスが大事。脱毛というより、アートなんです」と

ところで、レーザーによる脱毛はやけどをしたり皮膚が赤くなるのが心配、という声も多いが……

「これは機器の問題ではなく、出力の調整の問題。皮膚の色に合わせてレーザーの出力を調整するのですが、これは非常に微妙で素人には簡単に

にくだらない。大城先生によると、毛の量や大きさにより個人差はあるものの、1カ月半から2カ月おきに5〜6回通えばほぼ完了するという。

「女性にはワキやひざ下が目立つ夏のシーズンに、2〜3回だけ来る人が多いんです。でも毛も元に戻ろうとする性質があるので、放っておけば太くなってしまふ。それに、体毛は紫外線をカットして皮膚を守る役目もあるんで、2〜3年放っておけば、太陽に当たる部分は薄くなる可能性も。妊娠などホルモンの影響で毛が濃くなる場合もあります」

料金の目安は両ワキで1回2万円。広い範囲にわたる場合は、1平方センチあたり料金を計算する。

「うちでは、特定やこめかみの生え際などもチェック。その人に合うきれいなフェイスラインをデザインします。これは施術者のセンスが大事。脱毛というより、アートなんです」と

ところで、レーザーによる脱毛はやけどをしたり皮膚が赤くなるのが心配、という声も多いが……

「これは機器の問題ではなく、出力の調整の問題。皮膚の色に合わせてレーザーの出力を調整するのですが、これは非常に微妙で素人には簡単に

できませぬ。機器本体の出力と先端出力の数値は違うし、機器の調子もその日によって変わるので、うちでは毎日パワーチェックしています」

出力が弱いとやけどはしなくても、脱毛が不十分になることも。

「もし施術時に皮膚に赤みが出ても、それをおさえる作用があるレーザーを使えば除去できます。うちではこのレーザーを併用して施術しています。ほとんどのエステサロンでは扱っていないと思いますよ」

大城クリニックの医師は、全員が日本レーザー医学会の認定した専門医。安全教育委員会の教育実習や講習を受け、臨床経験も積んだレーザーのプロだ。日本レーザー医学会の理事でもある大城先生は、安心して治療が受けられるように、専門医の認定制度を徹底すべきだという。

また、最近エステサロンでは、レーザーに似たフラッシュランプという光脱毛が人気。最新式の「IPL」という機器はレーザーに比べて照射スポットが広く、太股やひざ下、胸など、広範囲の脱毛に適している。選択肢が増えて、いろいろな部分に活用できるようになった脱毛。だが、たとえ医療機関であっても大城先生のクリニックのように専門医のいるところはまだ少数。逆にエステサロンでも臨床データを分析し、はじめにテストをしてから施術するところもある。安全に利用するには、宣伝などにまどわされないことが第一。また施術者が使用する機器について熟知していること、きちんとカウンセリングをしていることも選ぶ際の大事なポイントだ。

また、最近エステサロンでは、レーザーに似たフラッシュランプという光脱毛が人気。最新式の「IPL」という機器はレーザーに比べて照射スポットが広く、太股やひざ下、胸など、広範囲の脱毛に適している。選択肢が増えて、いろいろな部分に活用できるようになった脱毛。だが、たとえ医療機関であっても大城先生のクリニックのように専門医のいるところはまだ少数。逆にエステサロンでも臨床データを分析し、はじめにテストをしてから施術するところもある。安全に利用するには、宣伝などにまどわされないことが第一。また施術者が使用する機器について熟知していること、きちんとカウンセリングをしていることも選ぶ際の大事なポイントだ。

### 施術者は慎重に選ぶ。それが脱毛を活用する秘訣